

地域の先達を講師とした、学校周囲の豊かな自然を舞台にした学び合い!

熊本県甲佐町

■ 活動名

甲佐町放課後子ども教室
乙女小 まつやま塾

■ 関係する学校

甲佐町立乙女小学校

基本データ	活動区分				
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	18人	51日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	乙女福祉ふれあいセンター、田畑、体育館、緑川	20年度	無		
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

毎週水曜日と金曜日の放課後に2時間程度活動を行っている。活動場所は、乙女小学校の空き教室を利用して設置されている「乙女福祉ふれあいセンター」を中心に、近くの田畑・グラウンド・体育館を使用している。

乙女小の全校児童を対象に参加を呼びかけて、希望者を募っている。定員は30名程度としているが、これまでは、希望者全員が活動に参加することができている。

【まつやま塾が目指すもの】

1.ふるさとを愛する心、感動する心

地域のボランティアの方々と遊びの活動や体験活動を通して、ふるさとを知り、愛する心、そして感動する心も育てる。

2.社会性の育成

異年齢の子供たちや大人とふれあうことで、人と関わる力やルールを守ることの大切さを学び、人として大切な社会性も身につける。また、先輩のすごさに気づいたり、下級生の世話をする力を育てる。

3.学習の定着

学習課題に取り組む。学習アドバイザーが子供たちの学習を支援する。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

「生きる力を養う」を目的の中心において、稲作や野菜の栽培を、種まきから管理、収穫して食べるまでを体験させている。また、稲作では「あいがも農法」に取り組み、昔の農機具を使って収穫を行っている。収穫した野菜は火を通して調理し、自分たちで作ったものの「命をいただく」ことを意識して活動している。

農業の他には、学校の周辺にある自然界にあるもの(木・竹・木の実・草など)や不要なものを素材として、家庭では敬遠されがちな道具(このなた・釘・かなづち・かま・小刀など)を使い、物を作り上げるにも取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

○ものづくりの際は、決められた時間内に完成させるため、ボランティアによる準備と段取りを入念に行っている。また、ケガをしないように、3～4人に1人の割合で指導者を配置している。

○平成25年度からは、自分たちの活動を紙芝居にして、注意喚起や知識の浸透を図っている。

■ 事業を実施して

クラスではあまり目立たないような子も、まつやま塾ではリーダーシップをとったり、低学年の子を引っ張ったりする姿が見られる。

また、家庭からのアンケートでは、「お手伝いをよくしてくれるようになった」「先を読む力がつき、段取りがよくなった」「祖父母や年長者に対して尊敬や感謝の心が生まれているな、と感じる」「活動があった日の夕食のときは、話が盛りあがる」こと等が報告されていることから、親も子ども活動に満足している様子がうかがえる。

現在の日常では経験できないことを体験することで、生きる力が育つだけでなく、家族の会話も増えていることが実感できている。

■ その他

育てた作物は調理して食べているが、食べることを無理強いはいしない。その時には食べることができなくても、後日「食べてみたらおいしかったよ～」という子供からの報告を聞くことがある。

「あいがも農法」実施後、指導員宅のあいがもをみんなで食した。「あいがも農法」を通して「命をいただくこと」の大切さを学んでいるが、自分たちのあいがもが食用になっていることは知らせていない。この点は、今後の課題とも言える。

■ 参考URL

<http://www2.higo.edu.jp/es/otomees/>



活動の中心である稲作(田植え)の様子



自分たちで育てたお米の味は格別!